

インターバンクの声（2017年12月20日）

前日のニューヨーク市場後半から長時間 112 円 50～60 銭前後での小動きを続けたドル円相場も、さすがに昨夜のニューヨーク市場の朝方にはドル買い・円売りに動き始めた。米長期金利が上昇し始めていたところへ、米商務省が発表した 11 月の住宅着工件数が市場予想を上回ったことでドル買いに勢いが付いたのだ。一戸建ての着工件数と許可件数がともに 10 年ぶりの高水準となり、抑制傾向にあった供給も改善されているようだ。さらに米税制改革法案成立への期待が広がっていたこともドル上昇の追い風になった。ただ昨夜のドル円の上昇は、何と言っても米長期金利の上昇による影響が一番大きく、米 10 年債利回りが 2.45%を上回ったのも久し振りだ。ドル円も 12/14 以来の 113 円台回復となったが、達成感が出たのか持ち高調整のようなドル売りが出始め、その後、皮肉にも下院で税制改革法案がいったん可決されてもドル売りが進み、112 円台後半に戻してニューヨーク市場を終えている。東京市場は昨日と同じように動き難そうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。